

# 長畝ふるさと通信



【2022年2月号】

## ■ 経営のピンチです

組合は1月末決算です。令和3年度はコメのJA仮渡金単価の大幅下落や、新之助の全量2等米格落ちなど計画外の悪状況が重なり、遂に赤字決算を余儀なくされました。組合が直接販売している主食用米の売上は、おかげさまでコロナの影響も受けず順調に推移していますが、JAに出荷した分は大幅ダウンとなりました。相変わらずコメの消費は低迷を続け、業務用米の過剰在庫は一向に解消されない状況下で、これ以上米価が下がってしまっはもうお手上げ状態です。令和4年度はコメ以外に何か儲ける手立てはないものかと思案中ですが、やっぱり基本は美味しくて高品質のお米を作り続ける事しかないのでは？と考えています。これまで組合では田植えの時に夏季の養分補給となる「穂肥」も一緒に配合されている「一発元肥」を使って、省労力化を図ってきました。しかし、近年の異常気象による収穫量の不安定を考えると、手間はかかっても生育状況の変化に即応できる「元肥+穂肥」の2段構え体系が望ましいとの結論に達しました。今年の夏は体力勝負で汗だくになって「穂肥」を散布して、太いコメを作りたいと思います。



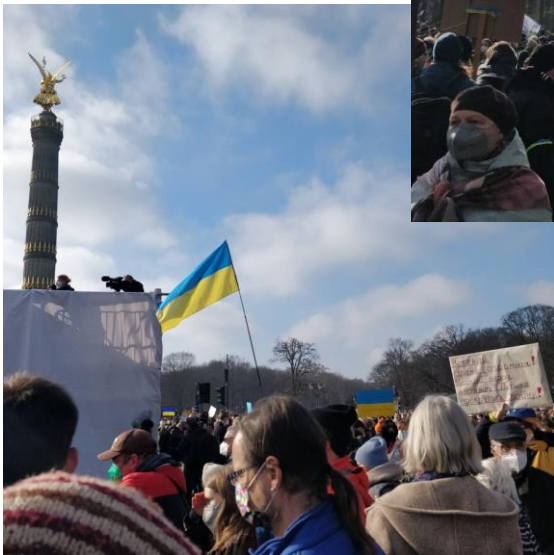
2月中は降ったりやんだりを繰り返しながら積もっていた田んぼの雪も、きれいに溶けてなくなりました。いよいよ春本番がやってきます。

## ■ 歓喜から絶望へ

2月は北京五輪の日本人選手の活躍に歓喜の声を上げまくりました。特に新潟県出身の平野・富田兄弟のハーフパイプはテレビの前で絶叫していました。高梨沙羅ちゃんの渾身のジャンプやパシュート女子の世界一きれいな隊列に感動し、カーリングの戦術の深さに感心しきりでした。やっぱりスポーツの世界的な祭典はいいよね・・・お金かかりすぎだとは思いますが・・・

ところが歓喜の閉会式からわずか4日後、ロシア軍がウクライナに侵攻したとの信じられないニュースが・・・毎朝報道される現地の子供たちの涙を見ていると心が痛くなります。世界中がこの暴挙に怒りの声を上げだしました。写真は2年前、組合にワーキングホリデーに来てくれたドイツ人のポール君が送ってきたものです。「ボクも反戦デモに参加してきたよ」「ドイツがやばくなったら佐渡へ逃げてもいい?」「すぐに逃げてこい!」・・・今でもラインでやり取りしています。

ウクライナの男たちは「総動員令」が出て、祖国を自分たちの手で守ることにしたそうです。平和ボケしたボクたちには到底できないことでしょう。組合のスローガンは「自分たちの故郷は自分たちの手で守り、引き継ぐ」ですが、彼らの覚悟とは雲泥の差だと思知らされました。



この戦争(果たして戦争と言っているのか? 一方的な侵略じゃねーの)がどういう結末を迎えるのか想像もつきませんが、未来を担う子供たちが笑って暮らせる世界にしてもらいたいです。オリンピックも国の概念は無しにして、個々のアスリートが国を背負わずに競い合えばいいと思います。

## ■ あと一食、コメを食べてください

コロナによる内食需要もいつの間にか消え去ってしまったようです。外食産業に関わっていらっしゃる方やパン屋さんには申し訳ありませんが、みなさん、あと一食お家でコメを食べましょう。コロナ感染の免疫力を高めるのはやっぱり「おコメ」です。「もう一食コメ運動」を全国に広めましょう。

**おかわりは自由です。**